

【解読文（白文）】

差上申一札之事

房州御備場其外 御公務筋御臨時二付

莫大之御入用并今般

若殿様 御引移

御乗出等種々折重り候御臨時御物入被為在、右

御公務筋等八御借財を以無御滞被為濟候へ共、

弥御借財相膏、御償も難被成御次第二付

此度無御抛、私共江御頼金被 仰付、来亥年と

来ル丑年迄三ヶ年二上納可仕旨被 仰渡

奉畏候、銘々被 仰付候金高之通毎年

十月晦日限急度上納可仕候、依而御請印形

差上申所如件

嘉永三戌年十月五日

【読み下し文】

差し上げ申す一札の事

房州御備場其の外 御公務筋御臨時に付

莫大の御入用ならびに今般

若殿様 御引き移り

御乗り出し等、種々折り重なり候御臨時御物入在ら

せられ、右

御公務筋等八御借財を以て御滞りなく済まされ候

へ共、

弥御借財相膏み、御償も成られ難き御次第に付

此の度御抛なく、私共え御頼金仰せ付けられ、来る

亥年より

来ル丑年迄三ヶ年に上納仕るべき旨仰せ渡され

畏まり奉り候、銘々仰せ付けられ候金高の通り毎年

十月晦日限り急度上納仕るべく候、依って御請印形

差し上げ申す所、件の如し

嘉永三戌年十月五日

【解読文（白文）】

一、金百八拾両 日野屋又右衛門

内 金六拾両 亥十月廿八日納

金六拾両 亥十月廿八日納^子又

金六拾両 丑十月廿九日納又

一、金百五拾両 橋本茂十郎^印

内 金五拾両 亥十月廿八日納又

金五拾両 子十月廿八日納又

金五拾両 丑十月廿九日□□

一、金百三拾両 大沢久右衛門^印

内 金四拾三両貳分 十月廿八日納又

金四拾三両貳分 子十月廿八日納又

金四拾三両 丑十月廿九日納又

一、金百両 原口真之助

内 金三拾三両貳分 亥十月廿八日納又

金三拾三両貳分 子十月廿八日納又

金三拾三両 丑十月廿九日

古橋宅二而□□

一、金八拾両 安田屋傳右衛門^印

内 金貳拾両 亥十月廿八日納又

子

内 金貳拾両 丑十月廿九日納

(中略)

梅澤秀次郎殿

樋口清三郎殿

前書之通相違無御座候間 取次奉差上候 以上

行田町年寄

当番

樋口清三郎 印

梅澤秀次郎 印

町

御奉行所

※(中略)以降は、テキストには写真版なし